

【評価実施概要】

事業所番号	170503924		
法人名	有限会社アイ		
事業所名	グループホーム澄川の丘		
所在地	〒005 - 0006札幌市南区澄川 6 条 7 丁目 1 -1 (電 話) 011 - 583 - 8181		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	〒060 - 0061 札幌市中央区南 1 条西 5 丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】 (21年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 0,7人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (1月 15日現在)

利用者人数	名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護 1	2	名	要介護 2	7	名	
要介護 3	6	名	要介護 4	1	名	
要介護 5	2	名	要支援 2			
年齢	平均	83,9 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林下病院 愛全病院 小笠原クリニック札幌病院 紺野整形外科クリニック なかさと歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かで自然環境に恵まれた一戸建て住宅が多い高台に、当ホームはある。敷地の隣は栗林で、秋の栗拾いは利用者の楽しみの一つになっている。ホーム一階にはウッドデッキが2ヶ所あり、東向きのウッドデッキからは野菜や果物の成長が眺められ、南向きのウッドデッキは暖かい日のティータイムや近隣住民との交流に活用されている。このホームの特徴は地域の人たちや近隣の高校生等のボランティアでの訪問が多いこと、併設サービスの施設が使えること、小型のセラピー犬が単調になりがちな生活に、癒しと潤いを与えている点あげられる。日々努力を重ね、介護支援専門員資格者が3名誕生したことも非常に評価出来る。今後も質の高いケアの実践と共に、さらに地域住民から支援されるホームであるよう期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、常にサービスの質の向上に努めている。自己評価や外部評価の意義や目的を正しく理解し、改善策を検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催し、家族・町内会役員・包括支援センター職員・施設長・管理者が参加し、入居状況・行事予定と報告・各ユニットの活動報告・健康管理・防災計画・事故事例・地域との交流等、地域密着型事業所としてサービスの質の向上と、運営に活かされている。会議レジュメを作成し、議事録もまとめられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関入口に意見箱を設置している。訪問時のきめ細かな対応で、希望・要望・意見等を聞いている。運営推進会議への参加を全家族に周知し、出された意見を尊重し、ケアの実現に向け取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、清掃活動・運動会・役員会等に参加し交流を深めている。ホーム行事の夏祭りには、多くの地域住民が参加している。日常的な散歩や買い物、外出時の挨拶などでも、地域の人達と自然にかかわるように努めている。また近隣の高校生や地域の人達がクラリネット演奏や化粧等のボランティアで訪問し、利用者との交流を重ねている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し「住み慣れた地でその人らしく豊かな暮らしができるよう支援していく」という理念を掲げ、安心して暮らしていける支援を実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念と、各ユニットの理念を作り毎朝の申し送り・ミーティング時に確認し、日々理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。		
でいる					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃活動・運動会・役員会に参加し交流を深めており、ホーム行事の夏祭りには、多くの地域住民が参加している。日常的な散歩や買い物、外出時の挨拶などでも、地域の人達と自然にかかわるように努めている。また近隣の高校生や地域の人達がボランティアで訪問し、利用者と交流を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、常にサービスの質の向上に努めている、自己評価や外部評価の意義や目的を正しく理解し、改善策を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催し、家族・町内会役員・包括支援センター職員・施設長・管理者が参加し、入居状況・行事予定と報告・各ユニットの活動報告・健康管理・防災計画・事故事例・地域との交流等、地域密着型事業所としてサービスの質の向上と、運営に活かされている。会議レジュメを作成し、議事録もまとめられている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>定期的に行われている、グループホーム管理者連絡会・区管理者連絡会には必ず参加している。利用者の介護支援関係や制度上の関わりも多く、行政との情報交換や指導、質問の機会をもっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪が多く、訪問時には近況と金銭管理等を報告している。来訪出来ない家族には、毎月使用明細と領収書をコピーし送付し、変化のあった場合は都度連絡を取っている。今後『ホーム便り』の発行を予定している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関入口に意見箱を設置している。訪問時のきめ細かな対応で、希望・要望・意見等を聞いている。運営推進会議への参加を全家族に周知し、出された意見を尊重し、ケアの実現に向け取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率が良く、ホーム内異動もない。退職者が出た場合は、利用者の特徴・留意点等を新しい職員に伝え、ダメージを防ぐ配慮をし、利用者との馴染みの関係が出来るまで4人体制で対応している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度内部研修会を開催している。外部研修には積極的に参加出来るように配慮し、資質向上に努めている。受講後には研修報告を提出し、全職員で共有出来るようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の管理者連絡会・南区の管理者会議・計画作成者の集いに参加し、互いに交流する機会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。グループホーム間の見学会も実施している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり生活が始まるのではなく、入居前の見学や併設のディサービスを利用する等し、徐々に馴染めるよう工夫している。また家族と相談し、昔からの生活習慣を大切に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、経験や知識を發揮してもらう為の場面設定に工夫し、利用者中心の生活をしている。常に尊敬の念を忘れずに、感謝の気持ちを持つよう心掛けている。一人ひとりの希望に沿った支援が出来るように、利用者の立場に立ったケアを心がけ、共に学び支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の様子や会話から、希望・要望を記録している。生活歴を把握し、本人本位の生活ができるように努めている。自己表現が出来ない利用者には、家族と相談し支援をしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の関わりの中から、より良く暮らすためのニーズや希望を汲み取っている。家族の来訪時・電話連絡などで要望等を聞き、カンファレンス会議で話し合いを重ね、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の状態を詳細に記録し、一人ひとりの状態に即したケアプランを作成している。変化が生じた場合は家族と話し合い、実情に即した介護計画を作成している。カンファレンス会議・ミーティングで検討しながら、状況に応じ対応している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>日常的な散歩・買い物・かかりつけ医の送迎・家族の宿泊等は、本人・家族の状況に応じ、事業所の多機能性を活かし柔軟な支援をし、個々の満足度を高めるように努力している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の医師による2週間に一度の往診、週に一度の看護師による訪問看護。さらに併設デイサービスの看護師が、毎日夕方には各ユニットを巡回し、日常の健康管理をしており利用者の信頼も厚い。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>『終末期・重度化の指針』を作成し、入居時に確認している。実際必要になった場合は再度家族と話し合う。協力医療機関と看護師とは24時間体制で連絡がつく体制が出来ている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接している。個々人のプライドや羞恥心を大切に、プライバシーを損ねることのないように、声かけに注意しながら対応している。記録等の個人情報は事務所で慎重に管理されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおまかな一日の流れはあるが、基本的に自由に過ごしている。個々人の希望する買い物・散歩・趣味等に配慮し、最大限受け入れるよう、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者一人ひとりの嗜好や希望を取り入れ、栄養・疾病に配慮して作られている。利用者は買い物に同行し食材選び・調理にも参加している。利用者と職員が同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・時間の制限はなく、体調や要望を聞き希望に沿うようにしている。併設のデイサービスのヒノキ風呂で露天風呂気分を満喫したり、各ユニット浴室の窓からの眺望もすばらしく、自然に入浴を楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、料理・配膳・掃除・飼育等等、得意な分野で経験・知識を発揮する場面を作り設定し、唄、踊り、裁縫などの楽しみごとや気晴らしの支援も積極的に行っている。外出や町内会行事参加等も、本人と相談し支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう、天気のよい日は散歩・買い物に出かけている。あまり歩くことが出来ない利用者も、隣の栗林で森林浴をする等、季節感を肌で感じられる様に配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。夜間は外部からの侵入阻止のため施錠をしている。基本的に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力のもと、防災・避難訓練を年2回実施している。各ユニットには消火設備が完備されており消防署・セコムへの自動通報システムもある。職員は救急救命講習を受講し、緊急対応マニュアルも見える場所に掲示し、すぐに確認出来るようにしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>疾患による食事・水分の制限をされている利用者には、チェック表による管理がなされ全職員が共有している。カロリー・栄養バランス・塩分摂取に気を配り、食欲が出るよう見た目にも美しく盛り付けし、一人ひとりの身体・咀嚼・嚥下状況にあわせた食事を提供している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間の壁には利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレ・浴室・廊下には手すりが効果的に配置されている。日常生活の匂いや音（食事作りや掃除）で五感を刺激し、温度・湿度・採光に気を配り、快適で清潔な居住空間を作っている。各ユニットには和室と洋室のくつろぎスペースが2ヶ所あり一人になったり、家族水入らずで団欒もでき、家族が宿泊する事も出来る。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入口には表札が掛けられ、自宅に居るような雰囲気を大切にしている。昔から使い慣れたなじみの家具・調度品・生活用品を各家庭から持参。また写真や手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるように配慮・工夫している。</p>		

 は、重点項目。